

## 平成20年度研究活動等 : 電子情報工学コース

雑誌名	東京都立産業技術高等専門学校研究紀要
巻	4
ページ	133-137
発行年	2010-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1282/00000098/">http://id.nii.ac.jp/1282/00000098/</a>

[2] 学会講演・研究発表

- 1) 大川, 山口, 田中:” ゲート接地増幅回路の帯域利得、消費電力に関する性能 評価” , 電子情報通信学会 2009 年総合大会, C-12-13, 2009.
  - 2) 山口, 田中, 大川:” ソース接地、ゲート接地増幅回路の帯域利得、消費電力に関する性能比較” , 電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会, C-25, 2009.
  - 3) 井出, 金子, 大川:” 高速タイミング抽出回路の低消費電力化の基礎検討” , 電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会, C-26, 2009.
  - 4) 鈴木, 大川:” PSpice におけるデバイスモデル作成の検討” , 電子情報通信学会 東京支部学生会研究発表会, C-13, 2009.
- 

[1]研究論文

- 1) T.Kuroki,T.Kinoshita, T.Shibazaki:Calculation Technique of Diffracted Electromagnetic Waves by a Circular Disk of Perfect Conductor Using Multiple Precision Arithmetic, PIERS Proceedings, pp.603 - 609, July 2-6, Cambridge, USA 2008.
- 2) 黒木啓之, 澤田清仁, 梶沢栄基, 柴崎年彦, 木下照弘: FDTD 法と多倍長精度計算法による完全導体円板の電流分布計算, 平成 20 年都立産技高専紀要, 8 ページ, 2009. 3.

[2] 学会講演・研究発表

- 1) 黒木啓之, 柴崎年彦, 澤田清仁, 木下照弘: 導体円板による散乱電磁界の数値計算, 数理科学会, 第 27 回数理学講演論文集, B202, p. 59-60, 2008. 8.
- 2) 澤田清仁, 柴崎年彦, 黒木啓之, 木下照弘: FDTD 法による散乱導体の電流分布計算, 数理科学会, 第 27 回数理学講演論文集, B204, p. 63-64, 2008. 8.
- 3) 梶沢栄基, 秋山正紀, 寺田肇, 柴崎年彦, 木下照弘: 厚膜抵抗による高周波同軸型固定減衰器の開発, 数理科学会, 第 27 回数理学講演論文集, B402, p. 75-76, 2008. 8.
- 4) 木下照弘, 柴崎年彦, 亀井和久, 黒木啓之, 松田勲: 変矩形導波管内に置かれた非常に薄い誘導性窓による散乱電磁界の変形留数計算法による解析, 電子情報通信学会 2008 ソサイエティ大会講演論文集, CS-1-2, 2008. 9.
- 5) 黒木啓之, 澤田清仁, 梶沢栄基, 柴崎年彦, 木下照弘: 多倍長計算法を用いた導体円板による散乱界の電流分布計算, 電気学会, 第 37 回電磁界理論シンポジウム講演論文集, pp. 47-52, 2008. 11.
- 6) 澤田清仁, 黒木啓之, 梶沢栄基, 柴崎年彦, 木下照弘: FDTD 法を用いた導体円板によ

る散乱界の電流分布計算，電気学会，第 37 回電磁界理論シンポジウム講演論文集，pp. 53-58，2008. 11.

- 7) 黒木啓之，柴崎年彦，木下照弘：自律型ロボットを用いたプログラミング教育，平成 20 年度情報教育研究集会講演論文集，C1-2，2008. 12.
- 8) 木下照弘，柴崎年彦，亀井和久，黒木啓之，松田勲：並行平板導波路内の非常に薄い容量性導体板による散乱界の変形留数法解析における零点，電子情報通信学会 2009 総合大会講演論文集，C-1-20，2009. 3.

[8] 国際学会・国際会議等

T.Kuroki, T.Kinoshita, T.Shibazaki: Calculation Technique of Diffracted Electromagnetic Waves by a Circular Disk of Perfect Conductor Using Multiple Precision Arithmetic", PIERS 2008, p.471 - 472, July 2-6, Cambridge, USA 2008.

電子情報工学コース 教授 原 一之

[2] 学会講演・研究発表

- 1) 原一之，上江洸達也，三好誠司，岡田真人：“メキシカンハット型相互作用が時間変化する系のレプリカ計算Ⅱ”，日本物理学会秋季大会 岩手，2008 年 9 月
- 2) 原一之，三好誠司，上江洸達也，岡田真人：“メキシカンハット型相互作用が時間変化する系の統計力学”，日本神経回路学会全国大会 産業技術総合研究所 つくば市，p. 120-121，2008 年 9 月
- 3) 原一之，三好誠司，上江洸達也，三好誠司，岡田真人：“パーシャルアニーリングの統計力学 ～ 相互作用がメキシカンハット型の場合 ～”，電子情報通信学会 NC 研究会 佐賀大学，pp. 79-83，2008 年 11 月

[6] 一般学会活動

日本神経回路学会 企画理事

[8] 国際学会・国際会議等

- 1) Hara K., Miyoshi S. and Okada M., Analysis of Ising spin neural network with time-dependent Mexican-hat-type interaction, International Conference on Neural Information Processing, Lecture Note in Computer Science pp.195-202, November 2008.
- 2) Hara K. and Yamada T. "Optimization of the Asymptotic Property of Mutual Learning Involving an Integration Mechanism of Ensemble Learning", Journal of the Physical Society of Japan, Vol. 77 No. 2. February 2008, 024005 (6 pages)

---

電子情報工学コース 教授 山口 知子

[2] 学会講演・研究発表

- 1) 山口知子, 市村淳: 低速多価イオンにおける分子のクーロン爆発の立体電子力学II, 原子衝突研究協会研究会, 北海道大学低温科学研究センター, 2008. 8. 5
- 2) 山口知子, 市村淳: 低速多価イオンによる分子のクーロン爆発の立体電子力学V, 日本物理学会2008年秋の分科会, 岩手大学, 2008. 9. 22
- 3) 山口知子, 市村淳: 低速多価イオンによる分子のクーロン爆発の立体電子力学VI, 日本物理学会第64回年次大会, 立教大学, 2009. 3. 30

[6] 一般学会活動

原子衝突研究協会 運営委員

[8] 国際学会・国際会議等

Analysis of charge-asymmetric Coulomb explosion of N<sub>2</sub> molecules with slow Kr<sup>8+</sup>Ions, Tomoko Ohyama-Yamaguchi and Atsushi Ichimura, 14th international conference on physics of highly charged ions, 電気通信大学, 2008.9.2

---

電子情報工学コース 教授 若海 弘夫

[2] 学会講演・研究発表

若海弘夫: ”包絡・微分混合検知法による高密度3値バーコード検知”, 2008年電子情報通信学会基礎・境界ソサイエティ大会, (2008), A-1-9, 9.

[6] 一般学会活動

- 1) IEEE Senior Member
- 2) Elsevier 発行の Journal of Applied Soft Computing への投稿論文査読者
- 3) 国際会議 ICCAS-SICE2009 への投稿論文査読
- 4) 電子情報通信学会正員

[8] 国際学会・国際会議等

H. Wakaumi: ”A High-Density Ternary Barcode Detection System Employing an Envelope-Differential Composite Method,” Proceedings of the 7<sup>th</sup> IEEE Conference on Sensors (IEEE Sensors 2008), (2008), B4P-J6, Lecce, Italy, 1076-1079.

[10] 特許

若海弘夫: ”バーコードの読取方法,” 特願 2008-270195

[1] 研究論文

- 1) T. Kuroki, T. Kinoshita, T. Shibazaki: Calculation Technic of Diffracted Electromagnetic Waves by a Circular Disk of Perfect Conductor Using Multiple Precision Arithmetic, PIERS Proceedings, pp.603 - 609, July 2-6, Cambridge, USA 2008.
- 2) 黒木啓之, 澤田清仁, 梶沢栄基, 柴崎年彦, 木下照弘: FDTD 法と多倍長精度計算法による完全導体円板の電流分布計算, 平成 20 年都立産技高専紀要, 2009. 3.

[2] 学会講演・研究発表

- 1) 黒木啓之, 柴崎年彦, 澤田清仁, 木下照弘: 導体円板による散乱電磁界の数値計算, B202, p. 59-60, 数理科学会, 第 27 回数理科学講演論文集, 2008. 8.
- 2) 澤田清仁, 柴崎年彦, 黒木啓之, 木下照弘: FDTD 法による散乱導体の電流分布計算, B204, p. 63-64, 数理科学会, 第 27 回数理科学講演論文集, 2008. 8.
- 3) 木下照弘, 柴崎年彦, 亀井和久, 黒木啓之, 松田勲: 変形導波管内に置かれた非常に薄い誘導性窓による散乱電磁界の変形留数計算法による解析, 電子情報通信学会 2008 ソサイエティ大会講演論文集, CS-1-2, 2008. 9.
- 4) 黒木啓之, 澤田清仁, 梶沢栄基, 柴崎年彦, 木下照弘: 多倍長計算法を用いた導体円板による散乱界の電流分布計算, 電気学会, 第 37 回電磁界理論シンポジウム講演論文集, pp. 47-52, 2008. 11.
- 5) 澤田清仁, 黒木啓之, 梶沢栄基, 柴崎年彦, 木下照弘: FDTD 法を用いた導体円板による散乱界の電流分布計算, 電気学会, 第 37 回電磁界理論シンポジウム講演論文集, pp. 53-58, 2008. 11.
- 6) 黒木啓之, 柴崎年彦, 木下照弘: 自律型ロボットを用いたプログラミング教育, 平成 20 年度情報教育研究集会講演論文集, C1-2, 2008. 12.
- 7) 木下照弘, 柴崎年彦, 亀井和久, 黒木啓之, 松田勲: 並行平板導波路内の非常に薄い容量性導体板による散乱界の変形留数法解析における零点, 電子情報通信学会 2009 総合大会講演論文集, C-1-20, 2009. 3.
- 8) 大関雄一, 福井悠生, 黒木啓之: ニューラルネットワークと DPS を用いたマルチエージェントシステム, 関東 4 高専合同卒業研究発表会, 401, 2009. 3.

[8] 国際学会・国際会議等

T. Kuroki, T. Kinoshita, T. Shibazaki: Calculation Technic of Diffracted Electromagnetic Waves by a Circular Disk of Perfect Conductor Using Multiple Precision Arithmetic", PIERS 2008, 471 - 472, July 2-6, Cambridge, USA 2008.

---

電子情報工学コース 助教 梶沢 栄基

[2] 学会講演・研究発表

梶沢 栄基, 秋山 正紀, 寺田 肇, 柴崎 年彦, 木下 照弘: 厚膜抵抗による高周波同軸型固定減衰器の開発, 数理科学講演会論文集, No. 27, pp. 75-76, 2008.

[3] 解説・寄書・記事・研究ノート等

梶沢栄基 (共著): 機能性炭素化合物の電子状態の研究, 電気通信大学機器分析センター研究報告書 Vol. 6, 2008.

---

電子情報工学コース 助教 福永 修一

[1] 研究論文

福永修一, 藤本健治:  $H^\infty$ フィルタを用いた非最小位相系の独立成分分析, 電子情報通信学会論文誌 D, Vol. J91-D, No. 6, pp. 1648-1655, 2008

[2] 学会講演・研究発表

藤本健治, 福永修一, 石原佳幸: 状態空間モデルの変分ベイズ推定, 日本鉄鋼協会第156回秋季講演大会, 2008

[5] 学位取得

博士 (工学), 名古屋大学, 2008年10月

---

電子情報工学コース 助教 横井 健

[2] 学会講演・研究発表

横井 健, 保福一郎, 柳本 豪一: 「ANPを用いた索引語ランキング手法の提案」, 第7回情報科学技術フォーラム(FIT), 2008年9月, 神奈川, 講演論文集 第2分冊 pp. 215-216 (E-034).

[8] 国際学会・国際会議等

- 1) "Information Filtering using Index Word Selection based on the Topics"  
Takeru Yokoi, Hidekazu Yanagimoto and Sigeru Omatu World Congress on Science, Engineering and Technology 2009 (WCSET2009) Penang, Malaysia, 25-27 February,  
2009 Proceedings of World Academy of Science, Engineering and Technology,  
Vol.38, pp.300-306

2) "Topic Extraction from Divided Document Sets" Takeru Yokoi and Hidekaz Yanagimoto 5th International Conference on Web Information Systems and Technologie(WEBIST2009) Lisboa, Portugal, 23-26 March, 2009 Book of Abstract p.50, Proc. pp.661-666(CD-ROM)

[9] 文部省科学研究費補助金に関わる活動

横井 健：若手研究（スタートアップ）：文書集合における潜在的意味に着目した特徴量選択手法の提案について（課題番号：20860085）